

■ コメント

1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当り3.29人とやや増加しており、例年同時期と比べて多い状態が続いています。佐伯区7.0人、中区5.0人と特に多く、東区3.7人、安芸区3.0人、安佐南区2.5人、西区2.0人となっています。

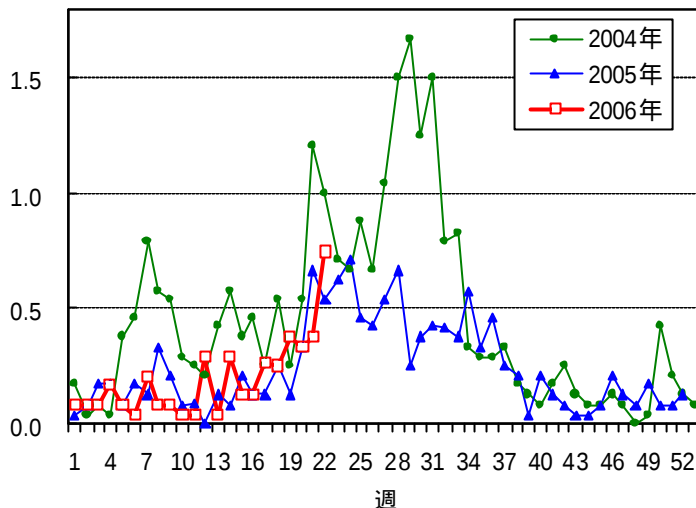
2. 水痘

定点当り3.92人とやや増加しており、例年同時期と比べて多い状態が続いています。佐伯区では13.0人と特に多く、安芸区5.5人、東区4.7人となっています。

3. 咽頭結膜熱

定点当り0.75人と増加しています。例年6月から8月ごろの夏季に多くなりますので、今後の動向に注意が必要です。

咽頭結膜熱



■ 5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号
インフルエンザ(注2)	11	0.30	0.16	↓	麻疹(注3)	-	-	0.08	
咽頭結膜熱	18	0.75	0.41	↗	流行性耳下腺炎	30	1.25	1.66	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	79	3.29	1.52	↗	RSウイルス感染症	-	-		
感染性胃腸炎	167	6.96	5.02	↗	急性出血性結膜炎	-	-	0.08	
水痘	94	3.92	2.02	↗	流行性角結膜炎	4	0.50	1.18	
手足口病	-	-	2.15		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	12	0.50	0.72		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.26	
突発性発疹	28	1.17	1.04		マイコプラズマ肺炎	5	0.71	0.20	
百日咳	-	-	0.02		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風疹	-	-	0.04		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	18	0.75	0.94	↗					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1.5～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間の同時期平均(定点当り)
(注2)高病原性鳥インフルエンザを除く
(注3)成人麻疹を除く
(注4)オウム病を除く

■ 1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	女性(20歳代)・O157

■ 5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

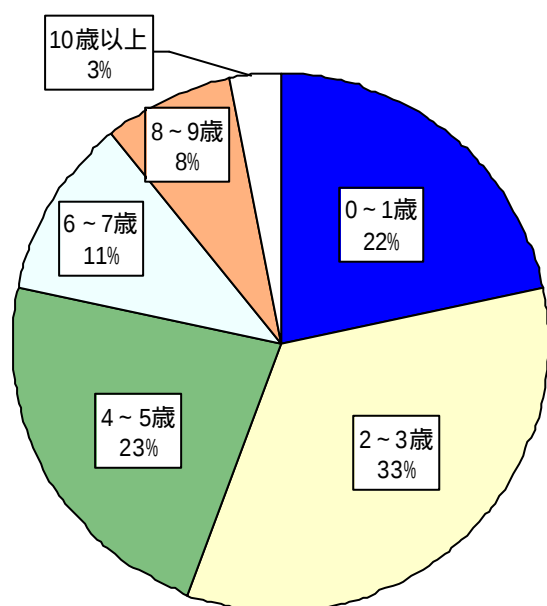
			インフルエンザ (注1)	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん	
報告数	広島市	第18週	44	6	43	142	42	1	10	-	-	1	-	18	-	-	6	-	-	1	-	-	
		第19週	21	9	37	159	78	-	7	14	-	-	-	-	19	1	-	10	-	-	4	-	-
		第20週	67	8	76	185	71	-	4	15	-	-	3	1	26	-	-	16	-	3	3	-	-
		第21週	65	9	63	156	70	2	7	17	1	-	16	-	20	-	-	8	-	1	2	-	-
		第22週	11	18	79	167	94	-	12	28	-	-	18	-	30	-	-	4	-	1	5	-	-
定点当り	広島市	第18週	1.19	0.25	1.79	5.92	1.75	0.04	0.42	0.42	-	-	0.04	-	0.75	-	-	0.75	-	-	0.14	-	-
		第19週	0.57	0.38	1.54	6.63	3.25	-	0.29	0.58	-	-	-	-	0.79	0.04	-	1.25	-	-	0.57	-	-
		第20週	1.81	0.33	3.17	7.71	2.96	-	0.17	0.63	-	-	0.13	0.04	1.08	-	-	2.00	-	0.43	0.43	-	-
		第21週	1.81	0.38	2.63	6.50	2.92	0.08	0.29	0.71	0.04	-	0.67	-	0.83	-	-	1.00	-	0.14	0.29	-	-
		第22週	0.30	0.75	3.29	6.96	3.92	-	0.50	1.17	-	-	0.75	-	1.25	-	-	0.50	-	0.14	0.71	-	-
全国	第20週	0.87	0.67	2.53	5.88	2.36	0.35	0.60	0.71	0.01	-	0.54	0.01	1.68	-	0.04	1.05	0.01	0.03	0.39	0.01	0.01	
	第21週	1.00	1.07	2.61	5.43	2.81	0.51	0.62	0.70	0.01	0.01	0.96	0.01	1.42	-	0.02	1.08	0.01	0.02	0.45	0.01	-	

(注1) 高病原性鳥インフルエンザを除く (注2) 成人麻しんを除く (注3) オウム病を除く

■ 新たに判明した病原体検査結果

新たな検査結果はありません。

【参考】広島市における咽頭結膜熱の年齢階層別構成比 (2006年第1週～第22週)



咽頭結膜熱はアデノウイルス(主に3型)によるウイルス性の感染症で、発熱・咽頭炎(のどの痛み)・結膜炎が主な症状です。プールで感染することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。

今年の全国の咽頭結膜熱の報告数は、過去10年間と比較して最も多い状態が続いています。広島市では、ほぼ例年並みで推移していましたが、第22週は増加して例年同時期より多くなっています。

図に示した患者の年齢階層別構成比(2歳間隔)からみると、乳幼児の患者が多く5歳以下が約8割を占めています。プール熱という名前から、学校のプールでの感染が多い印象を受けますが、それ以外の感染(家庭や保育園、幼稚園など)もかなりあると考えられます。

アデノウイルスは、患者の鼻汁、目やに、唾液、便などに含まれています。その感染力は強く、基本的には、ウイルスが口・鼻・のどの粘膜や目の結膜から体内に入って感染します。

予防方法は、手洗い・うがいの励行、タオルの共用などをやめることが重要です。

プールでの感染を防ぐためには、プールに入る前後に、シャワーでよく体を洗うとともに、よく目を洗うことが大切です。また、プールの管理者は、プールの消毒など衛生管理に気を付ける必要があります。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2006年第22週(5月29日～6月4日)